

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②	11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にかんしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(1)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダーン・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めなし。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	ET	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子/酒井 新一郎/有村 理	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション
- (2)言語1
2. (1)言語2
- (2)オリエンテーション(体育室)
3. 図書館案内
4. (1)言語3
- (2)言語活動(PC使用実践)
5. (1)言語4
- (2)言語活動(PC使用実践)
6. (1)社会1
- (2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
- (2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
- (2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
- (2)言語活動(PC使用実践)
10. (1)数学1
- (2)言語活動(比較分析)
11. (1)数学2
- (2)言語活動(情報収集法)
12. (1)数学3
- (2)言語活動(PC使用実践)
13. (1)数学4

(2)言語活動(発表力)

14. (1)確認試験1
- (2)おもてなしとマナーについて
15. (1)確認試験2
- (2)ホスピタリティー研修事前指導

授業の方法

演習形式
後半は言語活動、クラス討議や研修を行う

準備学修

テキストでしっかり予習・復習すること。eラーニングで学ぶこと。準備学修には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	PC	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石島 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に着けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
2. (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
3. 図書館案内
4. (1)言語3
(2)クラスでの自己紹介
5. (1)言語4
(2)授業の受け方
6. (1)社会1
(2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
(2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
(2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
(2)理解と表現(作文など)
10. (1)数学1
(2)理解と表現(比較分析)
11. (1)数学2
(2)リサーチの方法(情報の集め方)
12. (1)数学3
(2)リサーチの方法(レポートの作成)

13. (1)数学4
(2)簡単なプレゼンテーション
14. (1)確認試験1
(2)マナー
15. (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務j課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人／佐伯 瑠璃子／吉野 美智子／酒井 新一郎／有村 理	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)言語1
(2)言語活動(PCの使用実践)
2. (1)言語2
(2)言語活動
3. (1)言語3
(2)言語活動
4. (1)言語4
(2)共同作業
5. (1)社会1
(2)共同作業
6. (1)社会2
(2)言語活動(PC使用実践)
7. (1)社会3
(2)言語活動
8. (1)社会4
(2)言語活動
9. (1)数学1
(2)言語活動
10. (1)数学2
(2)言語活動
11. (1)数学3
(2)言語活動
12. (1)数学4
(2)言語活動(合唱練習)

13. (1)確認試験1
(2)言語活動(ディスカッション1)
14. (1)確認試験2
(2)言語活動(ディスカッション2)
15. (1)確認試験3
(2)言語活動(PC使用実践)

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかり、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅡ			13429	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
若生 茂嗣／大川 能子	選択	1				

授業の到達目標

- ・ 外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
 - ・ 聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
 - ・ 手話で会話ができるようにする。
 - ・ 講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流ができるようにする。
 - ・ 全国手話検定5級取得
- このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

- ・ 音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・ 手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・ 聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・ 手話の基本的な会話を習得する。
- ・ 障害者福祉の基礎を学ぶ。
- ・ レクリエーション

授業計画

1. 春学期の復習(夏休みの報告)
2. 実技(1日のこと)
3. 実技(1ヶ月のこと)
4. 聴覚障害者の課題4
5. 実技(1年のこと)
6. 実技(行事のお知らせ)
7. 聴覚障害者の課題5
8. 実技(会話してみましよう1)
9. 実技(会話してみましよう2)
10. 聴覚障害者の課題
11. 実技(会話してみましよう3)
12. 実技(応用編1)
13. 実技(応用編2)
14. 実技試験
15. まとめ

授業の方法

※

準備学修

※

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校規に従う。

テキスト

手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう（全国手話研修センター）

参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

国連は2017年「開発のための持続可能な観光の国際年」と定めた。「持続可能な観光」について学び、グローバル社会における観光と環境に関わる課題について考える。また世界的な認証である「サステイナブルツーリズム国際認証」について学び、自然環境と観光を融合した「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」などについての理解を深めることを目的とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

国連の「持続可能な開発目標（SDG'S）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標（持続可能な開発のための2030アジェンダ）であり、これは観光においても例外ではない。2017年国連が「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定するなど、現在「サステイナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっている。世界の観光旅行人口は約13億人になり、多くの人々が世界各地の観光地を訪れている。その中でいかに自然環境を守りつつ、観光を発展させていくのかを学ぶ。講義では「サステイナブルツーリズム」、「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」について学び、自然環境と共存し持続可能なツーリズムの仕組みを事例を交えながら理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション
2. SDG'sと「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」について
3. サステイナブルツーリズムと国際認証について
4. サステイナブルツーリズムの事例と課題
5. エコツーリズムについて(エコツーリズム推進法)
6. エコツーリズムの事例と課題①(国内)
7. エコツーリズムの事例と課題②(海外)
8. グリーンツーリズムについて
9. グリーンツーリズムの事例と課題①(国内)
10. グリーンツーリズムの事例と課題②(海外)
11. 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
12. 国立公園満喫プロジェクトの課題と取組
13. 観光におけるシェアリングエコノミーについて
14. オーバーツーリズムについて

15. まとめと定期試験

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題はレポートの提出（全2回）を求め、講義の中でフィードバックを行う。
評価は平常点70%、定期試験30%

欠席について

学則に従う。

テキスト

なし。随時プリントを配布する。

参考図書

講義時に必要に応じて紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

観光業は、観光政策を担う行政と観光産業に携わる業界とで構成される。観光事業の全体を理解し、観光政策と産業との関わりを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解する。また、産業としての観光事業を各業界別に理解する。観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。このクラスは、KAISEI パーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策、観光産業の2本の分野を中心に学ぶ。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道・運輸業等の役割を学ぶ。

授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と観光事業
3. 観光立国と観光政策
4. 国内観光振興事業
5. 国際観光事業
6. イベントコンベンション事業
7. イベントコンベンション事業
8. テーマパーク事業
9. 旅行事業
10. ホテル・旅館事業
11. 航空輸送事業
12. 鉄道事業
13. 地域観光: 地域と観光
14. 地域観光: 地域と観光
15. まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に取り組み発表し、学生によるディスカッションを行う。

準備学修

講義毎に図書館で購読されている旅行関連の雑誌等を紹介する。受講生は事前学習として読むこと。

課題・評価方法

課題50%、統括試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
イザベラバード『日本奥地紀行平凡社

留意事項

観光概論を発展した内容である。
*注(重要) 観光領域を学ぶ学生(観光領域ゼミ)は必ず履修すること。
ゼミ選考の要件になる。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

ユネスコ世界遺産の理念と登録制度について理解する。また主な国内及び海外の世界遺産の歴史や保存への課題について理解することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

世界遺産がもたらす経済効果と遺産保護との課題について考察を行う。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約の中で定義された世界遺産について、その条約の理念と登録制について学ぶ。また、国内及び海外の主な世界遺産に関して、「文化遺産」と「自然遺産」に分けて、その歴史や登録後の保存に関する課題について学び、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 世界遺産条約と登録制度
3. 文化遺産の類型と特性
4. 日本の文化遺産①
5. 日本の文化遺産②
6. 日本の文化遺産③
7. 海外の文化遺産①
8. 海外の文化遺産②
9. 海外の文化遺産③
10. 自然遺産の分類と特性
11. 日本の自然遺産
12. 海外の自然遺産
13. 危機遺産・負の遺産
14. トランスパウンダリー・サイトとシリアル・ノミネーションについて
15. まとめと定期試験

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題はレポートの提出(全2回)を求め、講義の中でフィードバックを行う。
評価は平常点50%、定期試験50%

欠席について

学則に従う。

テキスト

『くわしく学ぶ世界遺産300』世界遺産検定事務局著 マイナビ出版

参考図書

『世界文化遺産の思想』西村 幸夫著 東京大学出版会

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ハワイ文化研究			13965	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

ハワイの文化を研究する上で、文化を育んだハワイの歴史とその背景を学び、文化が伝わるプロセスと様々なハワイ特有の文化を学び理解をより深める。またハワイの精神である「アロハスピリット」を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業のテーマに関連した講義の他に、ビジュアルやビデオなどを用いてハワイ文化を視覚的に学習する。また小テストや問題集などを取り入れて、ポイントとなる箇所を復習する。

授業計画

1. ハワイの歴史(1) ポリネシア文化圏とハワイ諸島の誕生
2. ハワイの歴史(2) ハワイの信仰と神話
3. ハワイの歴史(3) ハワイ王国の歴史
4. ハワイの歴史(4) ハワイのフラの歴史 古典フラと現代フラ
5. ハワイの歴史(5) 日本人移民の歴史
6. ハワイの歴史(6) 戦時下の日系人
7. ハワイの歴史(7) 戦後のハワイと観光王国ハワイ
8. ハワイの言語(1) ハワイ語の基礎知識
9. ハワイの言語(2) ハワイ語の会話
10. ハワイの言語(3) ハワイアンソングに使われる単語
11. ハワイの文化(1) ハワイの食文化と暮らしの習慣
12. ハワイの文化(2) ハワイの伝統工芸
13. ハワイの文化(3) ハワイのミュージックとフェスティバル
14. ハワイの文化(4) ハワイの伝統文化継承と自然保護
15. 総括 & 試験

授業の方法

講義とビジュアルプレゼンテーションや小テストを中心とする。

準備学修

事前に指示されたテーマについて、予習、復習してくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

なし

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎を学ぶ。2018年に3,000万人を超えた訪日外国人観光旅行(インバウンド)ビジネスや2020年東京オリンピック・パラリンピック、2025年大阪万博などのメガイイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。特に観光ビジネスで注目分野であるインバウンドビジネス（訪日外国人旅行）について、地域との連携や課題について学ぶ。また、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック、ワールドマスターズゲームなどスポーツイベンにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 観光ビジネスの変遷について(マストツーリズムからの脱却)
3. 旅行業のビジネスモデルと販売戦略
4. 国内旅行
5. 海外旅行
6. インバウンドビジネス①
7. インバウンドビジネス②
8. インバウンドビジネス③
9. MICEビジネス①
10. MICEビジネス②
11. スポーツツーリズム①
12. スポーツツーリズム②
13. 地域創生と観光ビジネス①
14. 地域創生と観光ビジネス②
15. まとめと試験

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法

課題はレポートの提出(全2回)を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点50%、定期試験50%

欠席について

学則に従う。

テキスト

なし。随時プリントを配布する。

参考図書

『世界一訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著 東洋経済新報社

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化が加速している。企業が生まれ、成長し、発展していくが、その企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。社会に貢献できる企業とはどこのか。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解し、企業の社会的意義を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A)自律と(In)国際性を養う。

授業の概要

企業の仕組みを深く知ることから始まる。各業界における市場環境はどのようになっているのか。企業が生き残るためのリスクとは何か。研究対象の企業は、成長分野であるのか、衰退するのか、差別化はできているのかなどをポイントに分析をする。講義の主な業種はホスピタリティ産業から金融、製造業など様々な企業を対象とする。有価証券報告書を参考に同業種や他産業の比較の中で、企業の姿を理解していく。

授業計画

1. ガイダンス
2. 企業研究と発表
3. 企業研究と発表
4. 企業研究と発表
5. 企業研究と発表
6. 企業研究と発表
7. 企業研究と発表
8. 企業研究と発表
9. 前半のまとめ
企業研究と発表
10. 企業研究と発表
11. 企業研究と発表
12. 企業研究と発表
13. 企業研究と発表
14. 企業研究と発表
15. 後半のまとめ
企業研究と発表

授業の方法

講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。発表はパワーポイントを使い行う。

準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。
授業で注目した企業を紹介する。

課題・評価方法

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。
評価基準は平常点50%、発表50%

欠席について

規定通り

テキスト

日経業界地図（日経出版社）

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正／酒井 新一郎	選択	2	ホテル勤務／旅行会社勤務			

授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
2. JTB支店での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
3. グループワーク課題を実践する。
4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。総合旅程管理主任者資格（ツアーコンダクター）の取得を目指す。

このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う

授業の概要

春休みの1週間を利用して観光先進国を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。あわせてそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地ではJTB支店の協力を得ながらホテル視察、インバウンド観光の観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを現地体験する。

授業計画

1. オリエンテーション・事前準備の確認
2. 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
3. 事前研修・JTB支店の海外組織と現地支店の役割
4. 事前研修・グループワークの課題準備 その1
5. 事前研修・グループワークの課題準備 その2
6. 実地研修1日目：関空出発～目的地
7. 実地研修2日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
8. 実地研修3日目：研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
9. 実地研修4日目：研修地の移動
10. 実地研修5日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
11. 実地研修6日目：日系企業訪問
12. 実地研修7日目：帰路の空港見学・帰国
13. 現地でのグループワークの事後発表の準備

14. 現地でのグループワークの事後発表
15. 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの現地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法

事前研修、海外研修の総合評価。

欠席について

事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り不参加はできない。

テキスト

総合旅程管理主任者テキスト（受講者に事前説明有り）

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座（ツアーコンダクター）と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更になる事がある。また研修実施には最低催行人員の規定が適用される。（本学支援金支給対象科目）

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ツーリズム実務特論			13450	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	1	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光業界は大きな転換期を迎えており、新しいビジネスモデルが日々創出されている。また大型イベント（東京オリンピック・パラリンピック、大阪万博など）を控えて、観光産業は大きなビジネスチャンスが到来している。各分野の第一線で活躍しているビジネスパーソンの講師から事業現場の話聞き、課題を発見し、解決策を見出すことを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

本講義は、観光分野のプロフェッショナルの外部講師による講演を中心にを行う。各分野で活躍する講師には旅行、ホテル、航空会社、自治体などから招き、現場の最前線での仕事内容や課題などについて学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 講義①
3. 講義②
4. 講義③
5. 講義④
6. 講義⑤
7. 講義⑥
8. まとめと試験

授業の方法

外部講師による講義を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題はレポートの提出を求める。
評価は平常点70％・定期試験30％

欠席について

学則の通り。

テキスト

なし。随時プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English			13935	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を学ぶ。CDを聴きネイティブスピーカーの英語に慣れるようにする。ビジネスで実際に使われる慣用的な表現を学ぶ。TOEIC受検対策を兼ねている。また就活の社会常識として、実社会の現状について具体的に解説する。

授業の概要

仕事の仕組みや、標準的なビジネス・コミュニケーションを学ぶ。Fax,e-mail,ビジネスレター、封筒書き、ファイリング、などのオフィスワークの常識的な事務についても学ぶ。

授業計画

1. 講義概要、教科書、評価方法、シラバス（講義計画）
2. Unit 1. Job Hunting(1), Writing a resume
3. Unit 2. Job Hunting(2), Writing an application letter
4. Unit 3. Job Hunting(3), Arranging an interview
5. Unit 4. Job Hunting(4), A job interview
6. Unit 5. Job offer
7. Unit 6. The first day at work
8. Unit 7. Preparing to work
9. Unit 8. Telephoning (1) Answering
10. Unit 9. Telephoning (2) Taking a message
11. Unit 10. Telephoning (3) Making an appointment
12. Unit 11. Visiting a client
13. Unit 12. Receiving a visitor(1) Preparation
14. Unit 13. Receiving a visitor(2) Meeting at Narita Airport
15. 総括 & 試験

授業の方法

シラバス通りに進むので予習、復習を励行すること。

準備学修

予習、復習の励行

課題・評価方法

平常点50％、定期試験50％

欠席について

教室での学習に50％の評価をしているので欠席は減点の対象になる。

テキスト

[Business Talkやさしいオフィス英語] 城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer著、成美社

参考図書

[国際秘書英語] 亀山和夫、成美社

[国際ビジネスコミュニケーション入門] 亀山和夫、八尾 晃共著、成美堂

留意事項

毎回予習、復習を励行すること。単語テストを随時行うので普段から正確に単語を書けるようにしておくこと。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ (国内)			13969	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業（旅行会社・ホテル・航空関連・ウェディング会社他）に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。また、社会人としてのビジネスマナーや企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とA（自立）を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験（インターンシップ）からなる。事前研修では企業コンプライアンスや社会人としてのビジネスマナーなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日～1ヶ月となる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. インターンシップとは
3. 企業コンプライアンスについて
4. インターンシップ受け入れ企業について
5. グループワーク①
6. グループワーク②
7. 受け入れ企業とのマッチングについて
8. ビジネスマナー研修①
9. ビジネスマナー研修②
10. 就業体験前最終ガイダンス
11. 就業体験①
12. 就業体験②
13. 就業体験③
14. 就業体験④
15. 就業体験⑤

授業の方法

講義及びグループワークと就業体験を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題は就業体験レポートと日報の提出を求める。
評価は平常点50%、企業実習50%
就業体験は5回で30時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

なし。随時プリントを配布する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。また学生自身が就業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。尚、一部の受入先で選考がなされる場合がある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。製造業の組織管理とホスピタリティ産業の組織管理の違いを学ぶ。ホスピタリティ産業は、形のない製品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティ産業の組織は、どのように管理されるべきか、どのように運営すべきかを学ぶ。ホスピタリティ産業のマネジメント&マーケティングを理解することで、経営能力を身に付ける。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。前半は、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティングの基本を中心に講義される。市場における競争優位は、製品の差別化で達成できるのか、模倣されない差別化とは何かを学ぶ。後半は、ホスピタリティ産業の事例に取り上げ、その本質を解説する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのかを学ぶ。市場における外部環境を理解しながら競争力について理解する。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業（ホテル・旅館・テーマパーク等）から学ぶ。

授業計画

1. ガイダンス
2. ホスピタリティの歴史と文化
3. ホスピタリティ・サービスの語源
4. ホスピタリティ産業の製品特性
5. マーケティング戦略・マーケティングミックス
6. マーケティング戦略・インテグラルマーケティング
7. マーケティング戦略・労働生産性
8. 「加賀屋」のマネジメントを学ぶ(プロが選ぶホテル・旅館NO1の戦略を学ぶ)
9. 再生事業「星野リゾート」の戦略
10. 世界に名声を残すホテルマネジメント手法(マリオット・ザ・リッツカールトンホテル)
11. 旅行業とマネジメント(ニッコートラベルを事例に)
12. ホスピタリティ産業における企業戦略
13. ホスピタリティ産業における企業戦略
14. ホスピタリティ産業における企業戦略

15. まとめと総括試験

授業の方法

パワーポイントを使い講義を進める。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

準備学修

ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

課題・評価方法

授業での積極的参加評価10%
総括試験90%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

特に予定していない。

参考図書

服部勝人『ホスピタリティマネジメント入門』丸善
Jay B. Barney (岡田正大訳) 『企業戦略論』ダイヤモンド社
P.F.Drucker (上田惇生訳) 『マネジメント』
Kotler (平井祥訳) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

留意事項

講義だけでなく、講義で得た知識で社会を覗く事で講義の内容が活かされる。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。